

# 2022年度事業報告

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月31日

2022年度は停滞傾向にあった経済活動に活性化の兆しが見える一方、世界情勢の激変や止まらない原燃料価格の高騰、人手不足による人件費の上昇など、印刷業界のみならず、産業界全体で計り知れない影響がありました。

このような情勢下のもと、2022年度の事業運営にあたりましては、一般財団法人としての公益性を踏まえつつ、2022年度「事業計画」に基づき、専門図書館として一般利用者へ情報提供を行うとともに、各事業の積極的な推進に努めました。本年度の各事業の実施状況を報告するに当たり、下記のとおり、印刷図書館の事業体系に沿ってご報告いたします。

## 印刷図書館の事業体系

### 【公益目的事業】 1. 図書館運営事業

- (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス
- (2) 図書・資料の収集、整理
- (3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- (4) 関連機関との相互協力

### 2. 広報活動事業

- (1) 受入れ資料のデータベース化
- (2) インターネットへの蔵書データの更新
- (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介
- (4) ホームページを通しての財団活動報告等
- (5) 「印刷図書館コレクション」を利用した周知活動

### 【その他事業】 所蔵する印刷文化財の貸出

### 【重点テーマ】 1. 資料保存環境の見直し

2. 資料保存活動
3. 図書館の外部向け広報活動の強化
4. 図書館と関連機関との連携強化

### 【運営管理業務】 理事会・定時評議員会の開催

# 事業報告

## 【公益目的事業】

### 1. 図書館運営事業

#### (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス

##### ① 利用状況

2021年度に引き続き、2022年度も時間を短縮しての開館となったが、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこともあり、来館者数は前年度比約1.3倍と増加した。また2022年度は全国カタログ展の受賞作品展示会を5月16日～31日と約2週間開催したが、その期間の来館者数38名のうち、受賞作品の見学者は28名だった。コロナ禍前の2018年度の同月と比較しても来館者数は増加しており、集客効果が認められる結果となった。

当図書館の利用にあたっては、会費を納めている法人(維持会員)は無料、それ以外は、一般利用600円、学生200円としている。

利用者の多くが印刷業界や関連業界であるが、一般利用者の特徴として、シンクタンクやコンサルティングサービス会社による印刷業界の動向及びデータ収集の利用が多い。詳しい内訳は表1のとおりである。

(表1 印刷図書館来館者内訳 単位：名)

維持会員	一般	学生	合計
132	106	3	241

##### ② 閲覧分野

例年同様、最も多く閲覧された分野は印刷業界の分析資料だった。最新の統計情報や業界動向資料として新聞・雑誌・機関誌・会報なども併せて閲覧されることが多く、資料形態としては、新聞・雑誌類が最も多く利用される結果となった。

また明治時代の書体見本等の貴重資料については、書体研究者等には実物を直に触れることができるため、好評であった。

2022年度における閲覧分野の大まかな内訳は次のとおりである。

(単位：件／複数回答)

市場分析 動向 統計	技術 経営 料金 管理	資機材 (印刷機械、 紙、インキ等)	社史 組合史 歴史 人物伝	学会要旨 国内外論文	雑誌 新聞 機関誌 会報	明治 大正 昭和初期 史料	書体 活字	他 (叙勲・業界 イベント等)
68	32	15	23	9	76	18	16	13

### ③ 貸出業務及びコピーサービス

#### ア 貸出業務

貸出については維持会員のみを対象とし、2週間で5冊までとしているが、感染拡大予防対策のため、2022年度も引き続き貸出を休止した。なお、今後の貸出については2023年度に再開を予定している。

#### イ コピーサービス

コピー総数は、前年度とほぼ同数の1,587枚だった。そのうち約半数は、市場分析及び統計資料のコピーで全体の5割を占める。

本年度におけるコピーの利用状況及びパソコン利用は次のとおりである。

(単位：コピー／枚、PC／名)

コピー総数	白黒コピー枚数 (@50円)	カラーコピー枚数 (@100円)	私物PCへの入力 (@400円)
1,587枚	1,466枚	121枚	0名

### (2) 図書・資料の収集、整理

図書、資料の収集にあたっては、印刷関連の発行状況を常に把握し、積極的に関連団体や企業に問い合わせ、充実を図ったほか、バックナンバーの欠号補充にも努めた。

今年度における受入資料の総数は1,117点、区分の内訳は次のとおりである。

《2022年度 受入資料の区分》

(単位：点)

区分	点数	資料紹介
プリプレス	20	新版 DTP ベーシックガイドンス、活字とアルファベット 技術から見た日本語表記の姿 他
印刷技術	6	錦絵の彫と摺、版画の技法と表現 改訂版
後加工	9	木箱ラベルの時代 昭和のやさい
印刷資材／印刷機械	9	機能紙研究会誌、2022 印刷機材年鑑
技術一般／料金／出版／法令 環境／経営	23	パブリッシング・スタディーズ、印刷産業における環境関連法規集 (2022 年版)
名簿／業界イベント／図録	64	Graphic Art & Design Annual 2021、地図と印刷、各種名簿
市場分析、動向、統計	53	出版月報、ヤノ・レポート、印刷白書、2020 機能性インキ市場の全貌
調査研究報告書	46	複写機の技術系統化調査 (国立科学博物館技術の系統化調査報告書第 31 集抜粋)
研究論文、セミナー要旨	14	印刷学会主催の各種セミナー要旨
学会誌	22	印刷、画像、写真、メディア学会誌等
組合史・団体史・社史	14	東京書籍百年史、日本製紙連合会 50 年のあゆみ
その他歴史・印刷関連史	4	日本機械捺染史
国内雑誌類	227	23 誌 (月刊、隔月、季刊発行)
外国雑誌類	4	月刊印刷코리아 (韓国)
業界新聞	304	10 紙 (週刊、月 2、月 3 発行)
会報、機関誌等	241	63 誌 (月刊、季刊、年刊発行)
その他	57	アレッサンドロ・ヴァリニャーノ 日本に活字印刷を南蛮船でもたらした宣教師、ポスター万歳 百窃百笑
合計	1,117	

(3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供

専門図書館である印刷図書館の利用者は、探す資料内容もかなり細くなるため、そのニーズに対応できるよう、資料は特集記事ならびに注目記事をデータベース化し、より詳細な資料情報の提供に努めた。

また、当館で該当資料が見つからなかった場合は、他の機関にも問い合わせをし、所蔵の有無を確認し対応した。

#### (4) 関連機関との相互協力

本年度は「IGAS2022」や「じゃぱにうむ 2023」などで、一般社団法人日本印刷産業連合会の協力のもと印刷図書館のリーフレットの配布を行ったり、関連機関の企画展示のチラシの配布協力など、業界団体や公的機関との連携・協力を積極的に取り組んだ。

## 2. 広報活動事業

当財団はホームページを通して広報活動を実施しており、蔵書データの更新、新刊情報の紹介、財団活動等をその都度発信し、広報活動に努めた。

2022年度のホームページのアクセス件数は次のとおりである。なお、前年度と比較するとアクセス総数は約1.3倍となっている。4月や7月のアクセスが多い月に関しては月全体ではなく、アクセスが特別に集中した日があり、主に他関連機関などでイベントが開催されたことの影響を受けての一時的な増加であると考えられる。

### ・2021年度アクセス件数

(期間:2021年4月～2022年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
閲覧数	2,063	795	744	1,870	776	839	895	768	723	830	699	1,111	12,113

### ・2022年度アクセス件数

(期間:2022年4月～2023年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
閲覧数	4,328	1,239	1,044	3,134	690	659	641	680	654	894	885	793	15,641

### ・アクセスユーザーの比率

(期間:2022年4月～2023年3月)

新規ユーザー	リピーター
83%	17%

#### (1) 受入れ資料のデータベース化

今年度の受入れ資料 1,117 点すべてを、蔵書管理システムへデータベース化した。入力事項は、基本の書誌データ(タイトル、発行元、発行年、体裁)以外に、特集記事も入力し蔵書管理に努めた。

## (2) インターネットへの蔵書データの更新作業

入力したデータは、速やかにインターネットへデータ転送し、ホームページの[蔵書検索]機能の充実と、情報公開に努めた。

## (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介

受入れ資料のうち、定期刊行物以外の図書、報告書類については、ホームページの[新刊情報]に、表紙画像とともに主要目次を掲載し紹介した。

なお、本年度の掲載件数は昨年度より減少し 27 件だった。

## (4) ホームページを通しての財団活動報告、その他

ホームページを通して 2022 年度の理事会及び定時評議員会に関する事業報告を掲載した。また、第 63 回全国カタログ展の受賞作品の期間限定展示の告知、ブログ更新のお知らせを行った。

## (5) 「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動

これまでに芸術学部を持つ大学図書館や一般利用者が多い都内の中央図書館を中心に謹呈してきた。現在、次の謹呈先候補の調査を進めているが、来館した関連機関・業界関係者に対しての配布に留まっている。

## 【その他事業】

### ・所蔵する印刷文化財の貸出

前年度の貸出件数が 1 件だったのに対し、今年度の印刷文化財の貸出件数は 6 件、その他デジタル画像資料の貸出が 1 件、合計 7 件だった。詳細については次のとおりである。

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	青梅市立美術館 学芸員 田島奈都子
目 的	『須田記念 視覚の現場』（公益財団法人きょうと視覚文化振興財団機関誌）第 8 号掲載予定の「研究者のノート」の挿図として

作 品 名	ニホン判とライカ判比較画像 (ブログ『印刷図書館倶楽部ひろば』内コラムにて掲載画像)
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社ネクサス
目 的	制作番組『開運！なんでも鑑定団』内で「ニコンカメラ」説明 VTR にてニコン I 型カメラで採用されたニホン判フィルム紹介場面で使用

作 品 名	ポスター「大阪商船太刀山」 1916 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	印刷史研究家 松浦 広
目 的	『印刷雑誌』連載の「近代日本の印刷技術書探訪」の挿図として

作 品 名	「米欧回覧実記 第 1 篇」 久米邦武、1878 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社 NHK エディケーショナル コンテンツ開発センター
目 的	放送大学「続・日本の近代化を知る」 第 10 章 日本と国際法 (2020 年 12 月 12 日初回放送) 日本近代化の独自理論、思想の形成と現代からの評価を各分野の第一人者の講師をお迎えし、英語を基本として講演を行い、近代化の時代背景に岩倉具視について解説する際の資料として (再放送・期間延長)

作 品 名	「米欧回覧実記 第1篇」 久米邦武、1878年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社NHK エディケーショナル コンテンツ開発センター
目 的	日本の近代化の道筋と複雑な動きを多くの日本人に知ってもらおうと同時に、国際社会で日本を学ぼうとする学生たちに向けた教養講座を目指して放送大学とJICA（国際協力機構）が共同制作した番組「続・日本の近代化を知る 第10章 日本と国際法」（2020年12月12日初回放送）のDVD化（5ヶ国語で制作予定）のため

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922年 ポスター「豊国印御裏地」 1930年代 ポスター「伊勢崎大緋銘仙」 1928年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	青梅市立美術館 学芸員 田島奈都子
目 的	『日本印刷学会誌』第60巻第2号にて掲載予定の執筆論文「美人画ポスターに見る戦前期日本の製版印刷技術史」の図版として

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922年 ポスター「伊勢崎大緋銘仙」 1928年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	青梅市立美術館 学芸員 田島奈都子
目 的	『メディア史研究』第54号にて掲載予定の執筆論文「日本ポスターにおける〈赤玉ポートワイン〉という存在」の図版として



## 【重点テーマ】

### 1. 資料保存環境の見直し

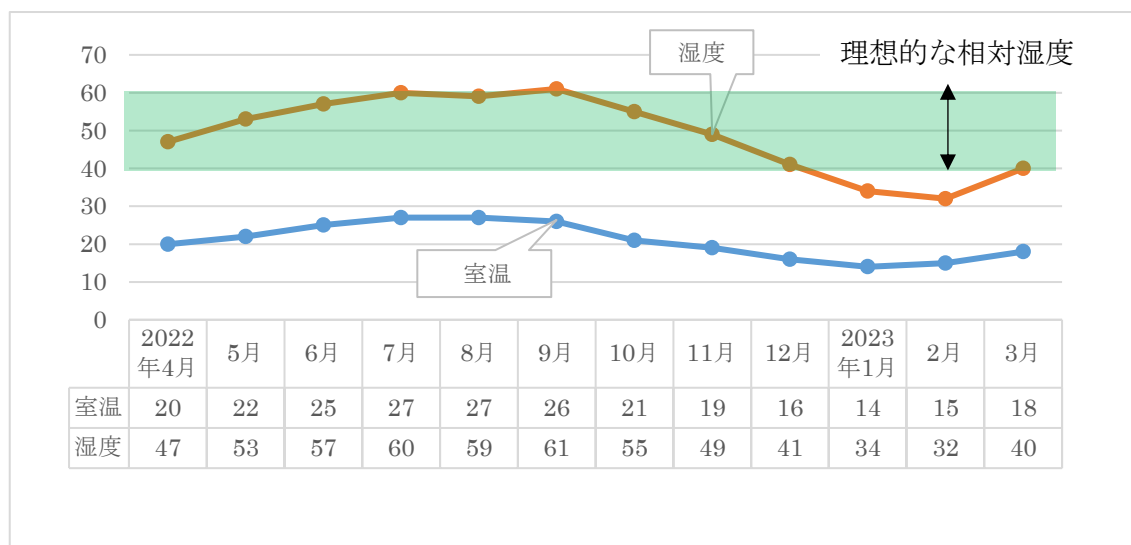
2021年12月、書庫内の資料にてカビ被害資料を発見、その対応として無酸素パック「モルデナイベ」にて隔離したが、3月には他の資料にもカビ被害が見つかった。そのため温湿度計にて書庫内を1年間調査した結果、夏場（6月～9月）は湿度が高く、書籍・文書の理想的な保管環境（摂氏温度18～22度、相対湿度40～60%）から逸脱している月があることがわかった。

また、現在の被害状況を把握するため専門業者に調査を依頼したところ、書庫内だけではなく、閲覧室側の資料にもカビ被害が発生していることが判明した。

一部資料に関しては職員によるアルコール消毒を行いつつも、防カビ対策には湿度管理が重要であるため、専門業者と除湿機の導入を進めている。

館内の詳しい温湿度については表2のとおりである。

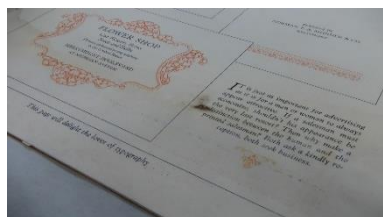
（表2 館内（書庫）の1ヶ月毎の平均温湿度）



## 2. 資料保存活動

当初予定していたのは『鎌倉武士』(1890年)、『五号活字総数目録』(1882年)のみだったが、書庫内にて見つかったカビ被害資料も追加し、修復・クリーニング作業を行った。

《処置前》 ハードカバー合冊製本5冊、保存箱の収納資料一式



### ●形態

※ハードカバー資料は表紙や見返し内側にカビの痕跡あり、天小口には塵芥が堆積している。

※保存箱内の資料のうち、冊子には水損、シミやカビの痕跡がある。綴じの金属にはサビも。

《処置後》

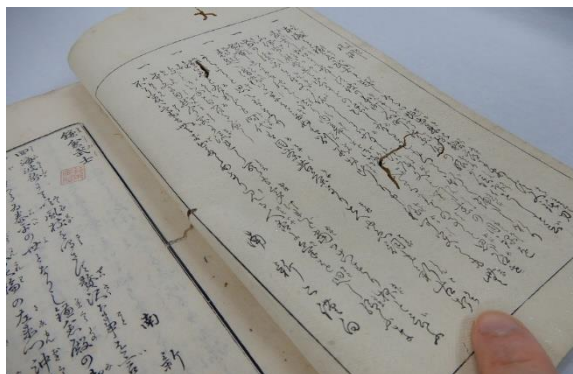


※カビ被害資料は事前に無酸素パック「モルデナイベ」で3週間以上の無酸素処置を行い、カビを不活性化させた。

※ドライ・クリーニング、消毒用エタノールによるクリーニングを実施。

※綴じの金属物を除去、新規の糸で綴じ直し、損傷箇所を和紙で補修。

《処置前》 『鎌倉武士』

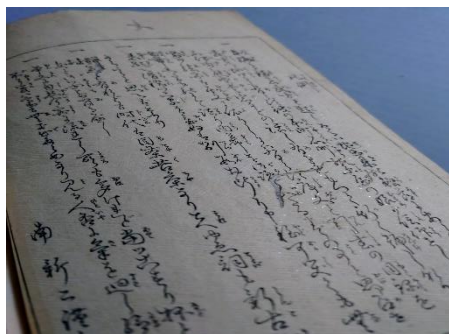
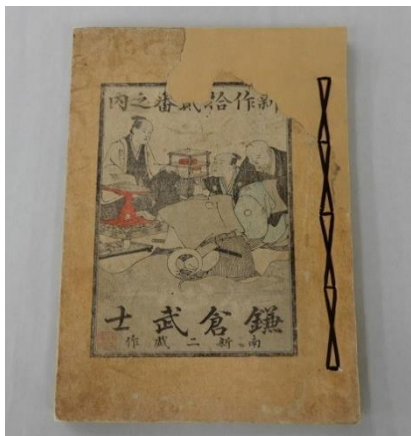


●形態：和本（平紐・平綴じ冊子）

※綴じ糸が劣化し切れている。表紙の欠損部はパルプ紙で補修した痕跡あり。

※表紙に近い複数ページに虫損。

《処置後》



※ドライ・クリーニング後、虫損部位を和紙とでんぷんで補修。

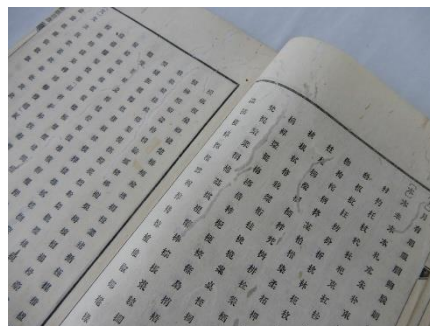
※表紙の旧補修紙は除去し染色和紙で補修、新規の糸で綴じ直した。

《処置前》 『五号活字総数目録』



- 形態：和本（こより平綴じ冊子）
- ※全体的に虫損被害が発生している。

《処置後》



※ドライ・クリーニング後、虫損部位を和紙とでんぷんで補修、綴じ直しをした。

### 3. 図書館の外部向け広報活動の強化

これまで印刷図書館への問い合わせ手段が電話と FAX のみだったが、ホームページ上にメールアドレスを記載し、メールでも対応できるようにした。また蔵書管理システムの機能拡張については費用対効果が見込めず、断念した。なお、SNS を利用した広報活動として、1 月より新たにブログ「印刷図書館だより」を立ち上げ、新刊・雑誌案内など図書館及び関連機関の企画展などの情報を発信している。

その他にも前年度に引き続き東京都印刷工業組合、公益社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）に協力を依頼し、毎年 4 月に開催している新人研修セミナーにおいて、当館のリーフレット並びに招待券付き案内状を配布した。

5 月 16 日～31 日にかけては、期間限定で第 63 回全国カタログ展の受賞作品のうち、上位賞・特別賞・審査員特別賞を含めた入賞作品全 47 点を展示した。会期内は入館料を無料とし、全国カタログ展の受賞作品を目的とした来館者にも、図書館を利用できるようにした。

図書館総合展 2022（開催期間 11 月 1 日～30 日）は前年度同様オンラインと小会場を設定してのハイブリッド開催で、小会場にて専門図書館紹介コーナーが開催されており、これに参加した。また本年度は各専門図書館の職員による自館紹介「あなたも使える専門図書館 2022 オンライントークイベント」が実施され、これに参加した。

### 4. 図書館と関連機関との連携強化

印刷図書館と印刷博物館間で「印刷専門図書館交流会」を 3 月 9 日に開催した。今回は資料保存環境・保存方法をテーマに勉強会を行い、博物館の収蔵庫を見学した。今後も継続的に史料収集・保管するためにも、活発な意見・情報交換を行い、それぞれの立場を把握し、相互理解を深めることができた。

## 【運営管理業務】

### 理事会・定時評議員会の開催

2022年度における開催状況は、次のとおりである。

#### (1) 定時評議員会

##### 2022年度 定時評議員会 (Zoom 併用)

- ・開催日時 2022年6月16日 午後2時5分～2時30分
- ・開催場所 TKP 大手町カンファレンスセンター ホール 22G
- ・出席者 評議員 22名中 12名  
理事 16名中 15名、監事 2名中 1名
- ・決議事項
  - ・2021年度計算書類承認の件
  - ・理事 16名選任の件 ・監事 2名選任の件
  - ・評議員 4名選任の件
- ・報告事項 2021年度事業報告の件

#### (2) 理事会

##### 2022年度 第1回 理事会 (書面決議による理事会)

- ・理事会の決議があったとみなされた日/2022年5月23日
- ・理事会決議があったとみなされた事項の内容
  - ・2021年度事業報告並びに決算の件
  - ・2022年度定時評議員会の開催日の件

##### 2022年度 第2回 理事会 (Zoom 併用)

- ・開催日時 2022年6月16日 午後2時30分～2時40分
- ・開催場所 TKP 大手町カンファレンスセンター ホール 22G
- ・出席者 理事 16名中 16名、監事 2名中 1名
- ・決議事項
  - ・代表理事選任の件
  - ・常務理事選任の件

##### 2022年度 第3回 理事会 (Zoom 併用)

- ・開催日時 2023年3月15日 午後2時30分～2時45分
- ・開催場所 日本印刷会館 202・203 会議室
- ・出席者 理事 16名中 15名、監事 1名中 1名
- ・決議事項
  - ・2023年度事業計画並びに予算の件

(付記) 事業報告に係る附属明細書について

事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していない。

以 上